



ASSESSMENT OF TECHNOLOGY
FOR BUILDING CONSTRUCTION
GBRC FOUNDATION

GBRC 性能証明 第 09-04 号

建築技術性能証明書

技術名称：浅沼式ひび割れ誘発目地付き耐力壁構法

申込者：株式会社浅沼組 代表取締役社長 浅沼 健一
大阪府大阪市天王寺区東高津町 12 番 6 号

技術概要：本技術は、鉄筋コンクリート耐力壁の収縮ひび割れ発生本数を制御するためのひび割れ誘発目地を配置した耐力壁を構築する構法である。本構法の特徴は、壁板表面側の増打ちコンクリート部に設けた欠き込み目地、ひび割れ誘発材および壁縦筋を一直線上に配置することで、ひび割れ誘発目地として機能させている点、ならびにコンクリートとの付着性状が良好な表面処理を施さない異形棒鋼をひび割れ誘発材に用いる点である。

開発趣旨：ひび割れ誘発目地付きの鉄筋コンクリート耐力壁については、目地欠損部の増加に伴い、剛性、耐力の減少が懸念されることより、本構法は、目地効果を確保する一方で、目地を設けない耐力壁と同等の剛性および終局耐力を確保することを意図して開発されている。

当財団の建築技術認証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

2009 年 5 月 12 日

財団法人 日本建築総合試験所
理事長 辻 文三

記

証明方法：申込者より提出された下記の資料により性能証明を行った。

浅沼式ひび割れ誘発目地付き耐力壁構法 「性能証明のための説明資料」
この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した実験資料がまとめられている。
この資料の他に、「浅沼式ひび割れ誘発目地付き耐力壁構法 設計要領」が提出されている。

証明内容：申込者提案構法によるひび割れ誘発目地付き鉄筋コンクリート耐力壁は、目地を設けない耐力壁と同様、短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起さず、設計要領書で示している終局耐力を有すると判断される。

建築技術性能認証委員会委員

委員長	松井千秋	九州大学		名誉教授
副委員長	窪田敏行	近畿大学理工学部		教授
委員	伊藤淳志	関西大学環境都市工学部		准教授
〃	内田直樹	(財)熔接研究所		理事
〃	大野義照	大阪大学		特任教授
〃	小林克巳	福井大学大学院工学研究科		教授
〃	菅野俊介	広島大学		名誉教授
〃	鈴木祥之	立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構		教授
〃	田才晃	横浜国立大学大学院工学研究院		教授
〃	田中哮義	京都大学防災研究所		教授
〃	谷川恭雄	名城大学理工学部		教授
〃	富永晃司	広島大学		名誉教授
〃	中塚侑	大阪工業大学工学部		教授
〃	平石久廣	明治大学理工学部		教授
〃	三谷勲	神戸大学		名誉教授
〃	南宏一	福山大学工学部		教授
〃	井上一朗	(財)日本建築総合試験所	試験研究センター	センター長
〃	益尾潔	(財)日本建築総合試験所	試験研究センター	部長
〃	吉田正友	(財)日本建築総合試験所	試験研究センター	部長
〃	永山勝	(財)日本建築総合試験所	試験研究センター	部長

浅沼式ひび割れ誘発目地付き耐力壁構法 評価専門委員会委員

主査	大野義照	大阪大学		特任教授
委員	益尾潔	(財)日本建築総合試験所	試験研究センター	部長